週刊 ワン アナザー

NY事情 37

室内にしつらえたカメラが、ウサギの日々の生態を映し出す。

シンプルながら愛らしいその様子に世界中にファンを作ったサイトがある。ブルックリンに居を構えるケビン・ドレッサーとケイト・ジョンソンが運営するサイト「ブルックリン・バニー」だ。

世界中にファン

二人は、大きなロフトにスタジオを構え、大学のカタログから雑誌の編集までを手がける売れっ子グラフィックデザイナーだ。日々コンピューターに向かって仕事をしている彼らのペットは、室内で飼育できるウサギ。黒い毛のアイラインが愛らしいドワーフ・ホトで、ブルックリン橋の設計者、ジョン・ロブリングからもらって、「ロブリング」と名付けた。

「ロブリング」は、元の飼い主が安楽死を望んでいたところを二人が引き取ったもので、以来「でき愛している」という二人のまなウサギだ。

ある時、外出先からもウサギの様子が観察できるように、四秒ごとに画像が再生するライブカメラをつけたことがきっかけとなり、その様子をコンピューターに紹介したのが二〇〇五年のこと。

お得意のグラフィック技術を駆使して、ブルックリン橋をウサギの耳に見立ててアイコンとし、まだまだポピュラーとはいえないウサギの飼育について紹介したり、ウサギの里子縁組について啓もうしたりとサイトは充実。

今では多い時で一日に千通を超えるメールが寄せられるまでになった。

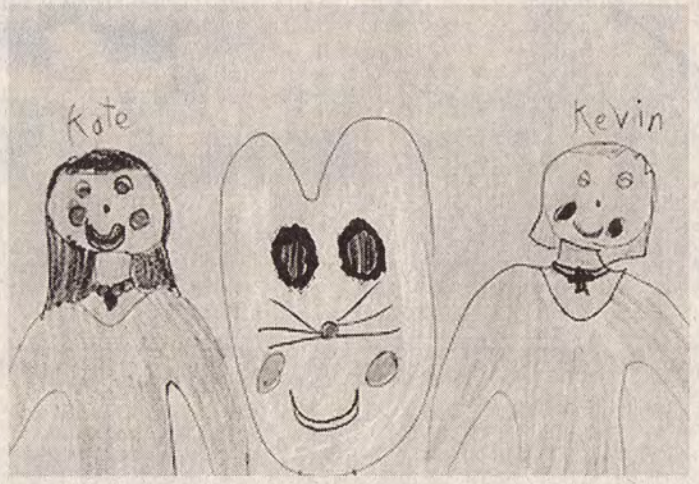
オリジナル商品

他にもアイコンをプリントしたTシャツやバッチを製品化したり、地元アーティストとペットの家庭用ルームスプレーを開発し、ウエブ上で販売した利益をアニマルレスキュー団体に寄付している。

「二年前、このサイトを見て気に入ってくれたフロリダの小学校の先生から、クラスの生徒がこのサイトのファンになり、僕たちとロブリングの塗り絵をたくさん送ってくれたんだ」というネットを通じての温かなコミュニケーションも作り出した。

「ニューヨークには多くのアーティストがいる。ウサギをテーマにしたポストカードを作って、ウエブ上でギャラリーショーを開催したり、Eカードとして流通できたらと思っている」と興味深いアイデアは果てしなく広がっている。http://www.bklynbunny.com/

（ニューヨーク在住、ジャーナリスト・西岡聖子）



サイトを見て小学生が描いたロブリングの絵

売れっ子グラフィックデザイナーの2人とまなウサギが暮らすアーティスティックな住空間